

「日本円金利指標に関する検討委員会」第1回議事要旨

(平成30年8月1日(水) 16時00分～17時00分、日本銀行本店会議室)

- 冒頭、日本銀行および金融庁から挨拶が行われた。日本銀行金融市場局長からは、2021年末以降のLIBOR存続への懸念が高まる中、わが国においても、金融機関、機関投資家、事業法人等の幅広い金融市場参加者および金利指標のユーザーが、信頼性と頑健性の向上を目指し、日本円金利指標改革を強力に進めていくことが重要との認識が示された。また、金融庁国際銀行規制調整官からは、今後、本邦市場の実情に即した形でマルチプル・レート・アプローチが実現できるよう、日本円金利指標の選択のあり方、移行、フォールバック等の検討を、スピード感をもって行っていく必要があるとの認識が示された。
- 事務局（日本銀行金融市場局市場企画課）より、「日本円金利指標に関する検討委員会」（以下、委員会。）運営要領について説明が行われ、承認された。事務局からは、委員会の参加者は守秘義務および国内外の適用されうるすべての競争法を遵守する必要があることについて注意喚起がなされた。
- 委員会の議長および副議長の互選が行われた。

席上より、「金利指標は、インターバンク市場やホールセール市場等での取引を通じて形成されるものであるため、金融機関が適任」との意見（事業法人メンバー）や、「金利指標に関する検討は、グローバルな調和のもとに進めていくことが望ましいため、国際的に幅広い業務を様々な顧客との間で展開している金融機関が適任」との意見（バイサイドメンバー）等が挙げられ、三菱UFJ銀行が議長、野村證券が副議長に互選された。
- 事務局から、金利指標の利用構造および各国の金利指標を巡る動向について説明が行われた。
- 委員会の運営要領に基づき、3つのサブグループが設立され、それぞれの運営要領が承認された。

すなわち、わが国では、貸出と債券が、企業の資金調達および金融機関や機関投資家の資金運用において重要な位置を占めることを踏まえ、「貸出サブグループ」と「債券サブグループ」が設立された。また、既存の金利指標であるIBORからリスク・フリー・レートに移行するにはその受け皿となるターム物金利の構築が必要なため、「ターム物金利構築に関するサブグループ」が設立された。
- 事務局より、金利指標改革にかかる作業工程の説明が行われた。

今後の具体的な作業工程としては、2021年末でのLIBOR公表停止の蓋然性の高まりを受け、①サブグループにて来年3月頃までをめぐりに精力的に検討を行い、その後、②委員会サブグループでの検討事項を取りまとめ、③市中協議を経て最終的な取りまとめ

を2019年秋頃をめどに提示する、というイメージが事務局より示され、メンバー・オブザーバー間で認識が共有された。

- 議長より、各サブグループでの検討を本年8月下旬以降に実施していく予定であり、次回の委員会会合は、各サブグループでの検討を踏まえ、同年10月下旬に開催することを想定している旨が伝えられ、メンバー・オブザーバー間で認識が共有された。
- 金利指標に関する海外の検討体との意見交換等については、委員会の正副議長を中心に対応することとなった。

以 上

「日本円金利指標に関する検討委員会」第1回会合 参加者

(メンバー)

議	長	三 菱 U F J 銀 行	松 浦 太 郎
副	議 長	野 村 證 券	野々村 茂
		み ず ほ 銀 行	渡 邊 謙
		三 井 住 友 銀 行	桂 田 大 成
		横 浜 銀 行	西 島 洋
		名 古 屋 銀 行	鈴 木 健 司
		ド イ ツ 銀 行	森 田 茂 樹
		大 和 証 券	稲 田 雄 一 郎
		ゴールドマン・サックス証券	田 口 研 吾
		モルガン・スタンレーMUFJ 証券	澤 田 淳
		ゆ う ち よ 銀 行	市 川 達 夫
		農 林 中 央 金 庫	永 田 士 郎
		信 金 中 央 金 庫	田 中 賢 治
		第 一 生 命 保 険	重 本 和 之
		東 京 海 上 日 動 火 災 保 険	新 川 真 也
		大 和 証 券 投 資 信 託 委 託	小 宮 力
		丸 紅	小 倉 泰 彦
		三 井 不 動 産	水 島 修
		東 日 本 旅 客 鉄 道	赤 池 弘 友 紀
		三 菱 U F J リ ー ス	富 永 修

(オブザーバー)

全 銀 協 T I B O R 運 営 機 関	遠 藤 満
国 際 ス ワ ッ プ ・ デ リ バ テ ィ ブ ズ 協 会	森 田 智 子
金 融 法 委 員 会	戸 塚 貴 晴
	(弁護士)

東京金融取引所
日本証券クリアリング機構
全国銀行協会
日本証券業協会
金融庁
日本銀行
日本銀行
日本銀行

瀬尾亮介
金子貴比古
小山寛隆
田口順一
大城健司
清水誠一
大竹弘樹
塩沢裕之

(敬称略)

以上